

米CPI上振れ、インフレ鈍化期待に水を差す

ポイント① 総合・コア共に市場予想を上回る

米労働省が13日に発表した1月の米CPIはインフレ鈍化期待に水を差す結果となりました。総合CPIは前年同月比+3.1%となり、23年12月の同+3.4%から伸びは鈍化したものの、市場予想（同+2.9%）を上回りました。また、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、23年12月と同水準の前年同月比+3.9%となり、市場予想（同+3.7%）を上回りました。

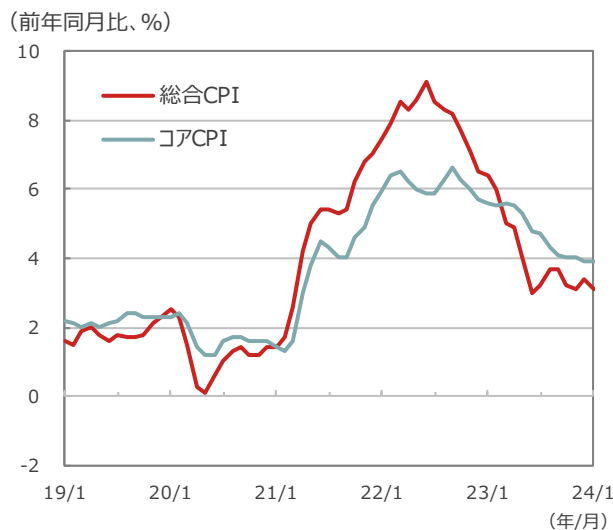
ポイント② 家賃を除くサービス価格は下げ渋り

米CPIの主な構成項目を前年同月比で見ると、中古車価格が下落したことなどから、商品価格の伸びがマイナスとなりました。また、家賃を含む住居費の伸びは鈍化傾向ではあるものの、ペースは緩やかです。一方、家賃を除いたサービス価格は下げ渋っています。自動車などモノの価格が上昇した影響が遅れて出ていることなどから、自動車保険料が急上昇しています。加えて、長らく続いている人手不足の影響による人件費上昇もサービス価格を幅広く押し上げており、インフレの鈍化ペースを遅らせています。

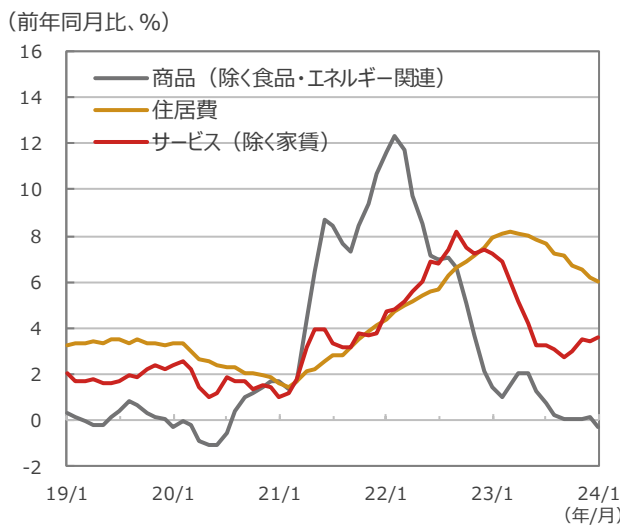
ポイント③ インフレ抑制の確信には時期尚早

米CPIの発表を受け、利下げ期待が後退したことから、米10年国債利回りは上昇（債券価格は下落）、米国株式市場は下落、為替は1米ドル=150円を突破し、円安米ドル高が進みました。米労働市場が堅調なことから賃金上昇圧力は強く、賃上げが価格に転嫁されるために、インフレが持続的に鈍化していくと見るには時期尚早のようです。インフレの上振れが一時的なものなのか、それとも根強いものなのか、労働需給や賃上げ動向、そして、価格への転嫁などで確認していくことになります。

米CPI（消費者物価指数）の推移



米CPIの主な構成項目の推移



重要 2月15日 米小売売上高（1月）
イベント 2月29日 米PCE（個人消費支出）物価指数（1月）